

「看護の魅力について」 語る

看護部トピックス

VOL. 7



「笑顔」 駒井里美

私は常に笑顔で患者さんと同じ目線に立ち関わることを心がけています。患者さんの発した一言の意味を考え、患者さんの思いに沿った、満足のいく関わりができる様になりたいと思っています。それが看護に繋がり、患者さんが笑顔になってくれた時、心から嬉しく思い「看護師になって、続けていて良かったな。」と思います。これからも、笑顔で頑張っていきたいと思っています。



「成長」 鈴木 結里香

看護師の魅力は、日々患者さんや家族、多職種と関わりの中で、様々な思いや考え方、価値観に触れながら看護を実践していき、その中で自分の考えや行動を振り返り、見つめ直すことで自分自身が成長できることだと思います。



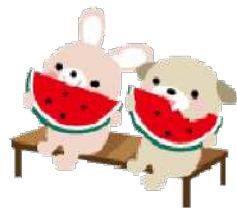
「その人らしさ」 市川綾香

入院中も退院した後も、その人らしく生きられるような支援をすることが、看護の役割だと思います。患者がどう過ごしていきたいか知り、思いを大切にしたい関わりができたとき、やりがいを感じます。その人らしい生き方とは何か、自分の看護が患者の思いに沿っているか考えながら、自分らしい看護をしていきたいと思っています。



「生(いきる)」 福家文代

患者さんから「家族っていう守るものがあるからがんばって生きていくんだ。」という言葉聞いたとき、人の力強い生きる力を見せ付けられたような感じがしました。生死に関わる職種での看護師として、それぞれの方の人生の一部に関われる所は、責任が大きく重大なことでもありますが、その分魅力を感じるところでもありました。今後もその人の生きる力、生きてきた過程を大切に、十分に生きたと感じてもらえるようにサポートができる看護師になりたいと思います。





「日々追究」岩下 幸野
 「よかったよ」と言われたり、笑顔が見られたときに自分が行った支援はよかったのだと実感し、看護を行う楽しさを感じています。看護は自分だけでは足りない部分をチームで話し合いを行い情報交換し、より良い方法を検討していくことも必要となります。自分にはない考えや不足していたことに対して気づけ、日々自分自身、成長できることも看護の魅力だと思います。行った看護の評価を行うのは患者であり、患者や家族の思いに沿った支援でない限り、看護とは言えないと思います。これからも患者や家族の思いに寄り添い、患者・家族からたくさんの笑顔が見られる看護が行えるように日々追求し、自分自身も成長していきたいです。



「支える」小林 幸栄
 患者、家族は相互に影響し合い、互いに支え合って生活をしている。私も辛いことがあっても患者さんの笑顔に支えられ仕事を頑張ろうと思うことが何度もあった。今後、私は患者さんを医療者として支えるのではなく人間として支えられるよう関わっていきたくて考えています。



「つながり」雨宮尚子
 妊娠、出産し母親になる」という患者のかけがえない人生の一部に関われることにとっても魅力を感じている。これから産まれてくる子どものことを患者とともに考え、ときには一緒に泣き、悩みながら過ごした時間は、患者との信頼関係を確かなものにしてくれ、その時間があつたからこそ、ここでの「看護」の意味について自分なりに深く考えられるようになったのだと思う。患者からかけてもらう多くの言葉や生まれてきた子どもを愛おしく思う母親とその腕に抱かれている児、それを温かく見守る家族の笑顔は、いつも私を温かい気持ちにしてくれ、心からこの看護師になって良かったと感じさせてくれる。

